

保護水面管理事業（アカガイ）

（要 約）

高山 治・平野 忠¹⁾・伊藤 秀明・高林 信雄²⁾

むつ市大湊の芦崎湾内におけるアカガイ資源保護及び増強を図るため、浮遊幼生調査、付着稚貝分布調査等の基礎調査を行った。なお、本調査結果については「保護水面管理事業報告書・平成4年度～6年度」として報告した。

1. 調査結果

① 浮遊幼生調査

各地点における出現数は依然として低水準である。その出現数は0～36個/tの範囲であった。地点別の浮遊幼生出現状況は、s t. 1（芦崎湾）で8月以降から認められ、その範囲は0～8個/tであり出現盛期は認められない。s t. 2（むつ沖）では平年は8月中旬から9月下旬にかけ出現が認められたが、平成6年度は高水温が影響したためか7月下旬から8月上旬にかけ盛期が認められた。その範囲は24～28個/tであった。s t. 3（脇野沢）では、平年8月中旬から9月下旬に盛期が認められていたが、平成6年度は7月下旬と8月下旬で顕著に出現が認められその出現数は各々12個/t、44個/tであった。s t. 4（青森沖）では、8月上旬から9月上旬に出現が認められ、その盛期は8月下旬から9月上旬と推察された。

② 付着稚貝調査

アカガイ稚貝付着数は0.03～6.00個/袋であった。平成6年度の付着数が極端に少なかったことから、平成5年の浮遊幼生出現数を照らし合わせてみたが傾向は認められなかった。

③ 環境調査

芦崎湾内及びその周辺で行った表層塩分は30.531～33.157‰の範囲であり、底層塩分は32.328～33.359‰の範囲であった。

採泥による環境調査において各々の調査地点での年変動は認められなかった。また、泥に含まれる有機物量を示す強熱減量はs t. 1、s t. 4、s t. 5において年々減少傾向にある。

④ アカガイ等分布調査

桁曳きにより保護水面周辺海域のアカガイ等大型生物の分布調査を行った。芦崎湾内のアカガイ分布状況は、0.1個/100㎡であった。一方、芦崎湾外の大湊周辺アカガイ分布状況は0.23～2.22個/100㎡の範囲で観察されているが、過去数年の結果と比較すれば減少している。

採取されたアカガイの殻長組成は、親貝となる90mm以上の比較的大型な個体にモードがみられた。しかし、後続群となる小型個体が少ないことから、今後の資源動向に不安が残る。

1) 現大畑地方水産業改良普及所 2) 現むつ地方水産業改良普及所